

プログラム名	さわってごらん、木の声が聞こえるよ！						
対象年齢	年長（5～6歳）						
ねらい	メッセージ	・人間と同じように木も生きている（人間も木も自然の一員である）ことに気づこう					
	発見・体感できること	・冬の木々や葉っぱの形、感触、色など（他の季節との違い） ・木の気持ち ・木と周辺的环境との関係					
参加者のめやす	幼児	6人×グループ数	/	支援者	グループ数と同人数		
実施時間	30分						
フィールド							
	森・社寺林・公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間	活 動			配慮・アドバイス アレンジ			
準備				<p>事前に、さがしにいく木のテーマのカードを作っておいてもよいでしょう。 ...例)トゲトゲ、ツルツル、ザラザラ、モコモコ、白、緑、太い、細い、葉っぱの有無 等</p>			
5分	グループごとに見つきたい木のテーマをいくつか決める			各グループにそれぞれ1名の支援者が付きます。			
5分	テーマにあった木をさがしにいく						
5分	見つけたら手でさわってみたり、耳をあててどんな音がするか聞いてみたり、ルーペで木の表面を見てみたりする			<p>聴診器があると木の音を聞くのに便利です。</p>			
2分	グループで観察した木の中からお話ししてみたい木を1本選ぶ						
5分	木の今の気分はどうか、どんな表情をしているかみんなで話しあう			<p>まず支援者が木との会話をを行い、木の気持ちを考えたり、木と話す楽しさを伝えましょう。 (例)葉っぱが全部落ちた木と芽が出ている木との違い</p>			
5分	みんなの想像する顔(画用紙等に表情を描いたもの)を木に貼る			<p>木の想いを子どもたちそれぞれに表現させることで、様々な感じ方があることも知らせましょう。 その場で表情を描いてみるのもよいでしょう。</p>			



時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ
----	----	---------------

3分	木に話しかけて、自分たちの思いを伝えてみる	 <p>支援者は木に話しかけるきっかけを作ったり、気候に応じて木の気持ちを代弁したりして、子どもたちの思いを引き出す工夫をしましょう。</p> <p>冬芽にはいろいろな表情があります。冬芽さがしを楽しんでみるのもよいでしょう。</p> <p>木同士のなわばり争いといった、植物の生存競争の一面もあることを伝えるのもよいでしょう。</p> 
----	-----------------------	---

【異年齢への対応】

年少：木を抱きしめたり、触ったりして、木のあたたかみ(安心感)を感じてみましょう。

年中：支援者があらかじめ木に表情カードを貼っておき、「なぜその表情(かなしい、うれしい)をしているのかな？」と問いかけ、みんなで考えてみましょう。

【園や家庭へ帰ってから】

生活の中で、木を材料にしてできているものにはどんなものがあるか探してみましょう。切られてしまう木も違う場面で活躍していることを語りかけ、できるだけ長く大切に使う気持ちのめばえにつなげます。

園庭や近所にある木についても、木と周辺的环境との関係を考え、木も人間も気持ち良くなるようにしていくためにはどうすればよいか、みんなで話し合ってみましょう。

準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けのためのシールやリボン、バンダナ等(グループ数が多い場合) ・木に貼る顔(画用紙等にいろいろな表情を描いたものや、白紙のもの) ・ルーペ(魔法のめがね) ・布テープ ・油性ペン ・聴診器
---------	---

